

(平成22年度入学生対象)

別記様式1

主 専 攻 プ ロ グ ラ ム 詳 述 書

開設学部（学科）名〔 工学部第二類 〕

プログラムの名称（和文）	電 気 電 子 工 学 プ ロ グ ラ ム
（英文）	Electrical and Electronic Engineering Program

1. プログラムの紹介と概要 電気、電子、システム、情報の分野ならびにその関連分野は技術革新が急速に進んでおり、特定分野の専門知識の深化によるもののみならず、複数の専門知識を融合させることにより、革新的な技術やアイデア、理論が生み出される状況にある。また、そのような技術等が社会に与える影響もより大きくなりつつあることより、人間、社会、自然との関わりを常に視野に入れることも必要とされている。 工学部第二類（電気・電子・システム・情報系）ではこのような社会の動向を踏まえ、広い視野と見識、責任感と倫理観を備えると同時に、深い専門性と技術および問題分析・解決能力を有する人材を育てることを目的として、以下のプログラムを準備している。 ・ 電子システムプログラム ・ 電気電子工学プログラム ・ システム工学プログラム ・ 情報工学プログラム 工学部第二類（電気・電子・システム・情報系）に入学した学生は、特別な事情がある場合を除いて、入学後1年間の教養教育ならびに専門教育を経て、2年次開始時に上記4つの選択肢から本プログラムを選択することができる。 電気電子工学プログラムでは、電気エネルギーやシステム制御に関連する分野を中心として、電気電子回路、コンピュータ、制御システムを取り扱うための基礎理論に加えて、電力システム、生体工学システム、通信システム、電気機器などの最新の技術応用までを習得できる。すなわち、本プログラムにおいては、電気エネルギーに立脚する様々なシステムの計画、設計、運用に携わる技術者に要求される幅広い基礎知識と技術を修得させ、今後の技術革新を自ら先導できる人材育成を目標としている。 電気電子工学プログラムには以下の特徴がある。 （1）電気電子工学を基盤とする産業分野は、電力、情報通信、医療、電機、交通など我が国の経済を担うものであり、この分野を担う技術者には幅広い基礎知識（すなわち回路理論、数学、制御理論といった将来的にもこの分野で核となる基礎知識）が不可欠である。このため本プログラムでは、これらの基礎知識の習得を重視している。 （2）本プログラムでは、産業界における実システムに関連する技術を重視している。すなわち産業界においては、ソフトウェアのみならずハードウェアに関連する知識や技術（すなわち、電気・電子回路や電力シ
--

システム、医療機器、ロボット、画像処理など実際の装置や機器を取り扱う知識や技術)が求められる。このため本プログラムでは、基礎知識に基づいてこれらの技術を体系的に習得ができるよう、バランスを重視したカリキュラムを構築している。

(3) 本プログラムでは、下記の資格を無理なく取得できるカリキュラムを構成している。

指定科目を履修すれば、下記の資格取得において該当する国家試験が免除あるいは一部免除される。

- ・第1種電気主任技術者、第2種電気主任技術者、第3種電気主任技術者
- ・第1級陸上特殊無線技士、第2級海上特殊無線技士
- ・教育職員免許状(工業)
- ・電気通信主任技術者(一部試験科目免除)
- ・第1級陸上無線技術士(一部試験科目免除)

2. プログラムの開始時期とプログラム選択のための既修得要件(履修科目名及び単位数等)

本プログラムは2年前期に開始するが、そのためには、34単位以上修得している必要がある。

3. プログラムの到達目標と成果

(1) プログラムの到達目標

プログラムの到達目標を以下に挙げる。

- (A) 科学・技術と人間・社会・自然環境とのかかわりを多角的にとらえ、技術者が社会に対して負っている責任の理解。
- (B) 電気・電子・システム・情報の各分野において共通して必要とされる基礎知識の習得。
- (C) 電気電子工学分野における専門知識とこれらを応用する能力の習得。
- (D) 専門知識を用いて与えられた課題を分析し、社会の要請に合致した解決策を導き出す能力の習得。
- (E) 課題を解決するための計画や方策を立案し、それを自主的に遂行する能力の習得。
- (F) 日本語や英語による情報収集・コミュニケーション能力、および成果や考察をまとめ、論理的に記述し、発表する能力の習得。

(2) プログラムによる学習の成果(具体的に身につく知識・技能・態度)

○知識・理解

- ・エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる、社会と技術の関わりに関する理解、および倫理観。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、微積分、線形代数など数学に関する基礎的な知識。
- ・自然科学・技術者として必要とされる、物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識。
- ・電気、電子、システム、情報分野の技術に関する全般的な理解・知識、およびこれらの分野に共通の基礎的な知識。

○知的能力・技能

- ・電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法。
- ・電気電子工学技術の基礎となる概念、知識および手法。
- ・電気電子工学技術の基礎概念、知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力。

○実践的能力・技能

- ・ 実際の問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法、および関連資料の収集により、問題・課題を解決する能力。
- ・ 実際の問題・課題に対して、自ら実行計画を立て、軌道修正を行ないつつ、基礎および専門的知識や手法を用いて、問題・課題を解決する能力。

○総合的能力・技能

- ・ 実際の問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力。
- ・ 研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論する能力。
- ・ グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力。
- ・ 社会に存在する様々な問題が、社会情勢や文化によって多様に解釈できることを理解した上で、その問題解決に向けた取り組みができる能力。
- ・ 研究遂行に必要な、英語に関する英会話、リーディング、およびライティング能力。

4. 教育内容・構造と実施体制

(1) 学位の概要 (学位の種類, 必要な単位数)

学士(工学), 124 単位以上(うち, 教養教育科目 47 単位以上, 専門教育科目 77 単位以上)。

(2) 得られる資格等

所定の授業を履修することで, 教育職員免許状(工業)が得られる。その他にも, 電気主任技術者, 電気通信主任技術者, 無線技術士については, 所定の授業科目を履修することで, 国家試験の試験科目の免除等が受けられる。詳細は学生便覧に記載されている。

(3) プログラムの構造

別紙2に示す。

(4) 卒業論文(卒業研究) (位置付け, 配属方法・時期等)

○位置付け

卒業研究は, 学生一人一人に対して設定された研究課題に沿って研究を行うことにより, 総合的な研究能力を身につけることを目指す。より具体的な目標は以下の通りである。

1. 研究課題に基づいて自ら研究計画を立案し, それに従って研究を遂行する能力を習得する。
2. 研究課題に関連する資料を収集し, 研究課題を深く理解し, 問題を発見する能力を習得する。
3. 研究課題における問題を分析し, 社会の要請に合致した解決策を導き出す能力を習得する。
4. 研究遂行に必要な英語に関するリーディング, ライティング, 情報検索能力を習得する。
5. 研究結果を整理し, 得られた成果の意義や有効性を理路整然とした文章で記述する能力を習得する。
6. 研究成果を口頭で分かりやすく発表し, 討論する能力を習得する。

○配属方法・時期等

卒業論文着手要件は学生便覧に記載されているとおり。

卒業論文着手要件を満たす4年次生以上を対象に, 本人の希望に基づき配属を決定する。第二類ではプログラムごとに当該プログラムの学生を主としてサポートする研究室群が定まっているが, 一定の上限内で, 他プログラム向け研究室にも配属を希望することができる。ただし, 受け入れ側に人数制

限があることより、配属調整は成績を考慮して行う。これらの配属調整方法は事前に説明会を開いて対象者に周知する。なお、研究室配属とプログラム配属対象者向けに、2～4月頃、研究テーマ説明会や研究室公開（オープンラボラトリー）を開催する。

5. 授業科目及び授業内容

履修表を別紙3に示す。

シラバスを別紙様式に示す。

6. 教育・学習

（1）教育方法・学習方法

別紙1に示す。

（2）学習支援体制（簡潔に箇条書きにしてください）

- ・入学時から1年次末までは、教養ゼミで割り当てられた研究室の教員がチュータになり、2年次前期から3年次末までは、電気電子工学プログラムの授業科目を主に担当する研究室の教員が技術英語演習を割り当てられチュータとなる。教養ゼミや技術英語演習で接する機会の多い教員をチュータとし、また、2年次始めのチュータの交代時には新チュータと学生の面談を実施することで、教員に対する心理的垣根を低くしている。
- ・成績表は、チュータとの面談を経ることで受け取られるようにしている。これにより、成績不振者に対する履修指導（保護者への連絡を含む）等をきめ細かく行っている。
- ・年度末に研究室公開（オープンラボラトリー）を行っている。学生が実際に研究室に出向き、研究室がどのような研究を行っているのかを見聞したり、研究室に所属する先輩の声を聞いたりすることで、学習への励みとなるようにしている。
- ・その他、全学的に採用されている、オフィスアワーや「もみじ」を使った学習支援も行っている。

7. 評価（試験・成績評価）

（1）到達度チェックの仕組み

- ・授業科目の成績は、シラバスに記載された成績評価方法と評価基準に基づき、秀、優、良、可、不可の5段階で評価する。これらの個別の成績をもとに、GPAなどの総合評価を行うが、その計算式は学生便覧に明記されている。
- ・2年次のプログラム配属ならびに4年次の卒業研究着手に際しては、あらかじめ定められた最低水準を満たすことを要求している。これは、入学後、2回の到達度チェック点があることを意味している。

- (2) 成績が示す意味
別紙4に示す。

8. プログラムの責任体制と評価

(1) PDCA責任体制（計画(plan)・実施(do)・評価（check）・改善（action））

本プログラムは、電気電子工学プログラムの教育を主としてサポートする教員によって遂行されるが、教育の対象者は第二類に属する学生であるので、その遂行上の責任者は第二類の類長とする。また、計画・実施・評価検討と対処は、主として第二類教育プログラム委員会（8名）が中心となり、適宜、第二類会議（原則として毎月第一水曜日開催）で審議して決定する。状況・内容によっては類長の指示のもとでワーキンググループを設け、重点的に取り組む。

プログラム単位で対応を検討する必要がある場合には、本プログラムを主として担当する教育科目群で対応する。その場合の責任者は類長が指名する。

(2) プログラムの評価

※プログラム評価の観点、評価の実施方法（授業評価との関連も記載）、学生へのフィードバックの考え方とその方法

○プログラム評価の観点

- 本プログラムの学習・教育目標に照らし、各授業科目が適切に配置されているか。また授業内容は適切か。
- 履修者は平均的には目標とする水準以上を達成しているか。
- 適切なサイクルでプログラムのスパイラルアップを行うシステムが機能しているか。

○評価の実施方法

- 履修者による授業評価結果、ならびに成績評価結果に基づき、それぞれの科目単位で自己評価を行う。
- プログラムのスパイラルアップに関しては、適当なサイクルで履修者に対するアンケートや、卒業生の声や企業のニーズを集めることなどを実施する。

○学生へのフィードバックの考え方とその方法

- 個々の授業に関しては、授業評価結果や成績評価結果に対する担当教員のコメントを示す。
- プログラム構造などの見直しに対しては、その理由や目的を第二類ホームページなどを通じて伝える。

※担当教員リストを別紙5に記入してください。

プログラムの教育・学習方法

○ 知識・理解

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
1) エンジニアとして基本的に備わっていることが必要とされる，社会と技術の関わりに関する理解，および倫理観。 2) 自然科学・技術者として必要とされる，微積分，線形代数など数学に関する基礎的な知識。 3) 自然科学・技術者として必要とされる，物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識。 4) 電気，電子，システム，情報分野の技術に関する全般的な理解・知識，およびこれらの分野に共通の基礎的な知識。	1) 「科学技術と人間社会」，「電子システム・電気電子工学概論」，「システム・情報工学概論」などの授業において，電気，電子，システム，情報の分野における科学技術と現代社会との関わりを学習するとともに，技術者としての倫理観を養う。 2) 「微分学」，「積分学」，「線形代数学Ⅰ」，「同Ⅱ」，「数学演習Ⅰ」，「同Ⅱ」などの講義や演習を通して，自然科学・技術者として必要とされる数学を習得する。 3) 「物理学Ⅰ」，「同Ⅱ」，「物理学実験」などの授業を通して，物理学の理論や概念を学ぶとともに，各種の実験を行い，自然科学・技術者として必要とされる物理学を習得する。 4) 「電子システム・電気電子工学概論」，「システム・情報工学概論」，「回路理論Ⅰ」，「プログラミング序説」などの各授業科目で電気，電子，システム，情報に関する全般的な基礎知識を習得する。特に，回路理論Ⅰでは小テストや演習を通してきめ細かい教育を行う。 評価 1) 小テストやレポート等で総合的に行う。 2) 期末試験などで評価する。 3) 授業科目については期末試験などで評価する。実験はレポートにより評価する。 4) 小テスト，演習，レポート，中間・期末試験の結果を元に総合的に評価する。

○ 知的能力・技能

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
1) 電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法。 2) 電気電子工学技術の基礎となる概念，知識および手法。 3) 電気電子工学技術の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力。	1) 「応用数学Ⅰ」，「応用数学総合」，「確率・統計」などの応用数学の講義・演習を通して，電気電子工学分野において必要とされる数学的手法を習得する。 2) 「自動制御工学」，「線形システム理論」，「信号処理工学」，「回路理論Ⅱ」，「電子回路」，「過渡現象論」，「電気磁気学Ⅰ」，「数理計画Ⅰ」などの専門科目の履修を通して，電気電子工学分野の基礎となる知識，概念および手法を習得する。 3) 「生体システム工学」，「電力システム工学」，「エネルギー変換機器」，「電力システム基礎」，「エネルギー発生・変換機器工学」，「通信工学」などの専門科目の履修を通して，専門基礎知識や手法を具体的・専門的な問題に応用する能力と先端技術の知識を身に付ける。 評価 1) 期末試験などで評価する。 2) 各科目で行う種々の成績評価法に基づき，総合的に評価する。 3) 各科目で行う種々の成績評価法に基づき，総合的に評価する。

○ 実践的能力・技能

身につく知識・技能・態度等 1) 実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する能力。 2) 実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・課題を解決する能力。	教育・学習の方法 1) 「プログラミング演習Ⅰ」，「電気工学基礎実験Ⅰ」，「同Ⅱ」，「電気電子工学実験Ⅰ」，「同Ⅱ」などの実験・実習科目を通して，専門分野における種々の課題を具体的に検討し，実験や数値解析・シミュレーションなどにより答えを導き出す手法を修得する。また結果について考察し，これらをレポートの形で整理することで論理的思考力や文章表現力を習得する。 2) 「卒業論文」において，指導教員を中心とした研究室単位でのゼミナールや，理論あるいは実験研究を遂行する中で，自ら実行計画を立案・実行・修正を繰り返し行い，また基礎および専門的な知識や手法を用いて研究を進めることで，実際的な問題や課題を期限内に解決する能力を習得する。 評価 1) 実験における取り組みの姿勢やレポートの内容などから総合的に評価する。 2) ゼミナールや個別指導における取り組みの姿勢や研究遂行の程度などから総合的に評価する。
---	---

○ 総合的能力・技能

身につく知識・技能・態度等	教育・学習の方法
1) 実際的な問題・課題を分析し、社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や、この解決策を物理的に実現する技術開発能力。 2) 研究などの結果を整理し、得られた成果の意義や有効性も含めて、文章で論理的に記述するとともに、口頭で分かりやすく発表し討論する能力。 3) グループワークにおけるチームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力。 4) 社会に存在する様々な問題が、社会情勢や文化によって多様に解釈できることを理解した上で、その問題解決に向けた取り組みができる能力。 5) 研究遂行に必要な、英語に関する英会話、リーディング、およびライティング能力。	1) 「卒業論文」において、社会的要請に常に配慮しながら、基礎および専門的知識や手法を用いて研究を進めることで、問題の解決策を導出するための創造的・論理的思考力や、これを物理的に実現するための技術開発能力を習得する。教育は指導教員を中心とした研究室単位でのゼミナールや、理論あるいは実験研究における個別指導を中心とする。 2) 「卒業論文」において、指導教員などに対する状況報告書の作成や、卒業論文作成の指導を通じて、学術論文や技術報告を執筆する際に必要となる、論理的思考力及び文章表現力を習得させる。また、研究室内部での報告会や、多数の聴衆の前での発表会を開催する。その際、視聴覚機器やソフトウェア等を活用して効果的な発表ができるように指導することで、説明力や表現力を習得させる。 3) 「電気工学基礎実験Ⅰ」、「同Ⅱ」、「電気電子工学実験Ⅰ」、「同Ⅱ」の実験科目において、与えられた課題をグループで討論しながら実験を進め、その結果を報告書にまとめることで、チームワーク、リーダーシップやコミュニケーション能力を習得する。 4) パッケージ別科目、総合科目を中心とする教養教育科目によって、社会情勢・自然・文化などについての知識を身に付け、異文化を理解するとともに、種々の視点から問題を検討し、解決策を探る能力を習得する。 5) 「コミュニケーションⅠ」、「同Ⅱ」、「同Ⅲ」、「ベーシック外国語Ⅰ」、「同Ⅱ」を通して、英語を中心とした外国語に関する読み、書き、会話などのコミュニケーション能力を身に付ける。「技術英語演習」では、工業技術に関する語彙・用法を学習し、科学者・技術者に必要な英語能力を習得する。また「卒業論文」において、英語で記載された著書、学術・技術論文などを用いた学習・情報収集を通じて、科学者・技術者に必要な英語能力を高める。
	評価 1) ゼミナールや研究における取り組み状況や発表会における質疑などを元に、総合的に評価する。 2) 報告書や卒業論文を元に総合的に評価する。また、発表に関しては、当プログラム担当教員が総合的に評価する。 3) グループでの実験に対する取り組みやレポートなどから総合的に評価する。 4) 期末試験などの、各科目の指定する成績評価方法による評点から総合的に評価する。 5) 期末試験などの、各科目の指定する成績評価方法による評点から総合的に評価する。「卒業論文」ではゼミナールや個別指導において学習結果を評価する。

身につく 知識・技能・態度	授業科目名							
	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
エンジニアとして基本的 に備わっていることが 必要とされる，社会 と技術の関わりに関す る理解，および倫理 観	○科学技術と人 間社会	電子システム・ 電気電子工学概 論，システム・ 情報工学概論						
自然科学・技術者とし て必要とされる，微積 分，線形代数など数学 に関する基礎的な知 識	○微分学，○線 形代数Ⅰ，○ 数学演習Ⅰ	○積分学，○線 形代数Ⅱ，○ 数学演習Ⅱ						
自然科学・技術者とし て必要とされる，物理 学の理論および実験方 法に関する基礎的な知 識	○物理学Ⅰ	○物理学Ⅱ，○ 物理学Ⅲ，○基 礎物理化学，○ 物理学実験						
電気，電子，システ ム，情報分野の技術に 関する全般的な理解・ 知識，およびこれらの 分野に共通の基礎的な 知識。	○プログラミン グ序説	電子システム・ 電気電子工学概 論，システム・ 情報工学概論， 回路理論Ⅰ						
電気電子工学分野の専 門家として必要とされ る数学的手法。		応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ，応 用数学Ⅲ，確 率・統計	応用数学総合				
電気電子工学技術の基 礎となる概念，知識お よび手法。			自動制御工学， 回路理論Ⅱ，電 気磁気学Ⅰ，教 理計画法Ⅰ	線形システム理 論，電子回路， 過渡現象論		信号処理工学		
電気電子工学技術の基 礎概念，知識および手 法を具体的・専門的な 問題に応用する能力。			電気電子計測， 電気磁気学演習 Ⅰ	電気磁気学Ⅱ， 電気磁気学演習 Ⅱ	電力システム基 礎，エネルギー 変換機器，生体 システム工学， CMOS論理回路設 計	エネルギー発 生・変換機器工 学，電力システ ム工学，通信工 学，計算機ネッ トワーク	電子機器	
実際的な問題・課題を 解決するための実験お よび数値計算的手法， および関連資料の収集 により，問題・課題を 解決する能力。		プログラミング 演習Ⅰ	電気工学基礎実 験Ⅰ	電気工学基礎実 験Ⅱ	電気電子工学実 験Ⅰ	電気電子工学実 験Ⅱ		
実際的な問題・課題に 対して，自ら実行計画 を立て，軌道修正を行 ないつつ，基礎および 専門的知識や手法を用 いて，問題・課題を解 決する能力。							卒業論文	
実際的な問題・課題を 分析し，社会の要請に 合致した合理的な解決 策を導き出すため創造 的・論理的思考力や， この解決策を物理的に 実現する技術開発能 力。							卒業論文	
研究などの結果を整理 し，得られた成果の意 義や有効性も含めて， 文章で論理的に記述す るとともに，口頭で分 かりやすく発表し討論 する能力。							卒業論文	
グループワークにおけ るチームワーク，リー ダーシップやコミュニ ケーション能力。			電気工学基礎実 験Ⅰ	電気工学基礎実 験Ⅱ	電気電子工学実 験Ⅰ	電気電子工学実 験Ⅱ		
社会に存在する様々な 問題が，社会情勢や文 化によって多様に解釈 できることを理解した 上で，その問題解決に 向けた取り組みができ る能力。	○パッケージ別科目，○スポーツ 実習科目，○ 基盤科目（数学，物 理等の科目を除く） ，○自由選択 科目		○総合科目，○領域科目					
研究遂行に必要な，英 語に関する英会話， リーディング，および ライティング能力。	○コミュニケーションⅠ，○ パーシック外国 語Ⅰ	○コミュニケーションⅡ，○ パーシック外国 語Ⅱ	○コミュニケーションⅢ			技術英語演習	卒業論文	

注) 科目名の前に○印のあるものは教養教育科目，太字は第二類専門基礎科目，斜体は他プログラム専門科目，それ以外は自プログラム専門科目

別紙 3

△自由選択(いずれかで履修)

注1:コミュニケーションⅠA、ⅠBは1セメで単位を修得できなかった場合に限り、2セメで受講できる。
注2:コミュニケーションⅡA、ⅡBは2セメで単位を修得できなかった場合に限り、3セメで受講できる。
注3:『英語』の履修については、上記の他、短期語学留学等による「英語圏フィールドリサーチ」、自学自習による「マルチメディア英語演習」を履修することができるが、卒業に必要な単位に含めることはできない。ただし、短期語学留学については、事前の申請によりコミュニケーションⅠ、Ⅱ、Ⅲとして単位認定が可能である。(P。教養7～)
注4:外国語技能検定試験による単位認定制度もある。詳細は、学生便覧に記載の教養教育の英語に関する項を参照のこと。(P。教養55～)
注5:自然科学領域以外の領域(人文科学, 社会科学, 複合, 及び外国語)から履修すること。
注6:「要修得単位数」欄の()書きの情報科目(2)単位と自由選択科目(2)単位の計4単位のうち、卒業要件単位数として算入できるのは2単位である。

◎ 必修
○ 選択必修
△ 自由選択

科目 コード	授業科目	単位 数	履 修 指 定				毎週授業時数								備考
			テ電 ム子 シ ス	工電 学気 電 子	工シ 学ス テ ム	情 報 工 学	第 1 年次		第 2 年次		第 3 年次		第 4 年次		
							前	後	前	後	前	後	前	後	
K02010	応用数学Ⅰ	2	◎	◎	◎	◎		2							
K02020	応用数学Ⅱ	2	◎	○	△	△			2						
K02030	応用数学Ⅲ	2	◎	○	◎	△			2						
K02040	応用数学Ⅳ	2			◎	◎		2							
K02300	応用数学総合	2	○	◎	◎	◎				2					
K02050	応用数理 A	2				△					2				
K02070	応用数理 C	2	○							2					
K02080	確率・統計	2	△	◎	◎	◎			2						
K02730	技術英語演習	1	◎	◎	◎	◎						2			
K60800	電子システム・電気電子工学概論	2	◎	◎	◎	◎		2							
K60880	システム・情報工学概論	2	◎	◎	◎	◎		2							
K60460	回路理論Ⅰ	2	◎	◎	◎	◎		2							
K60890	プログラミング演習Ⅰ	2	◎	◎	◎	◎		2							
K60760	電気工学基礎実験Ⅰ	1.5	◎	◎					4.5						
K60770	電気工学基礎実験Ⅱ	1.5	◎	◎						4.5					
K60780	電気電子工学実験Ⅰ	1.5	◎	◎							4.5				
K60790	電気電子工学実験Ⅱ	1.5	◎	◎								4.5			
K60900	情報工学演習Ⅰ	2			◎	◎				2					
K60910	情報工学演習Ⅱ	2			◎	◎					2				
K60300	システム工学実験Ⅰ	1			◎	◎			3						
K60310	システム工学実験Ⅱ	1			◎	◎						3			

到達目標評価項目と評価基準の表

○ 知識・理解

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備 考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
エンジニアとして基本的な備わっていることが必要とされる、社会と技術の関わりに関する理解、および倫理観。	社会と技術の関わりを十分に理解し、十分な倫理観を養っている。	社会と技術の関わりを標準程度理解し、標準程度の倫理観を養っている。	社会と技術の関わりを最低限程度に理解し、最低限の倫理観を養っている。	○科学技術と人間社会(1)； 電子システム・電気電子工学概論，システム・情報工学概論(2)
自然科学・技術者として必要とされる、微積分、線形代数など数学に関する基礎的な知識。	微積分、線形代数など数学に関する、十分な基礎的知識を習得している。	微積分、線形代数など数学に関する、標準的な基礎的知識を習得している。	微積分、線形代数など数学に関する、最低限の基礎的知識を習得している。	○微分学，○線形代数学Ⅰ，○数学演習Ⅰ(1)； ○積分学，○線形代数学Ⅱ，○数学演習Ⅱ(2)
自然科学・技術者として必要とされる、物理学の理論および実験方法に関する基礎的な知識。	物理学の理論および実験方法に関する、十分な基礎的知識を習得している。	物理学の理論および実験方法に関する、標準的な基礎的知識を習得している。	物理学の理論および実験方法に関する、最低限の基礎的知識を習得している。	○物理学Ⅰ(1)； ○物理学Ⅱ，○物理学Ⅲ，○基礎物理化学，○物理学実験(2)
電気、電子、システム、情報分野の技術に関する全般的な理解・知識、およびこれらの分野に共通の基礎的な知識。	電気、電子、システム、情報に関する全般的、および共通基礎的な知識を、十分に習得している。	電気、電子、システム、情報に関する全般的、および共通基礎的な知識を、標準程度に習得している。	電気、電子、システム、情報に関する全般的、および共通基礎的な知識を、最低限程度に習得している。	○プログラミング序説(1)； 電子システム・電気電子工学概論，システム・情報工学概論，回路理論Ⅰ(2)

○ 知的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備 考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法。	電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法を、十分に習得している。	電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法を、標準程度に習得している。	電気電子工学分野の専門家として必要とされる数学的手法を、最低限程度に習得している。	応用数学Ⅰ(2)； 応用数学Ⅱ，応用数学Ⅲ，確率・統計(3)； 応用数学総合(4)

電気電子工学技術の基礎となる概念，知識および手法。	電気電子工学技術の基礎となる概念，知識および手法を，十分に習得している。	電気電子工学技術の基礎となる基礎的な概念，知識および手法を，標準程度に習得している。	電気電子工学技術の基礎となる基礎的な概念，知識および手法を，最低限程度に習得している。	自動制御工学，回路理論Ⅱ，電気磁気学Ⅰ，数理計画法Ⅰ(3)；線形システム理論，電子回路，過渡現象論(4)；信号処理工学(6)
電気電子工学技術の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する能力。	電気電子工学技術の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する十分な能力を習得している。	電気電子工学技術の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する標準的な能力を習得している。	電気電子工学技術の基礎概念，知識および手法を具体的・専門的な問題に応用する最低限の能力を習得している。	電気電子計測，電気磁気学演習Ⅰ(3)；電気磁気学Ⅱ，電気磁気学演習Ⅱ(4)；電力システム基礎，エネルギー変換機器，生体システム工学，CMOS論理回路設計(5)；エネルギー発生・変換機器工学，電力システム工学，通信工学，計算機ネットワーク(6)；電子機器(7)

○ 実践的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備 考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する能力。	実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する，十分な能力を習得している。	実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する，標準程度の能力を習得している。	実際的な問題・課題を解決するための実験および数値計算的手法，および関連資料の収集により，問題・課題を解決する，最低限の能力を習得している。	プログラミング演習Ⅰ(2)；電気工学基礎実験Ⅰ(3)；電気工学基礎実験Ⅱ(4)；電気電子工学実験Ⅰ(5)；電気電子工学実験Ⅱ(6)
実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・	実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・	実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・	実際的な問題・課題に対して，自ら実行計画を立て，軌道修正を行ないつつ，基礎および専門的知識や手法を用いて，問題・	卒業論文(7・8)

課題を解決する能力。	課題を解決する，十分な能力を習得している。	課題を解決する，標準的な能力を習得している。	課題を解決する，最低限の能力を習得している。	
------------	-----------------------	------------------------	------------------------	--

○ 総合的能力・技能

評価項目	非常に優れている (Best)	優れている (Modal)	基準に達している (Threshold)	備考 (適用科目名を記載) ※ () 内は履修セメスター
実際の問題・課題を分析し，社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため創造的・論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力を十分に習得している。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力を標準程度に習得している。	社会の要請に合致した合理的な解決策を導き出すため論理的思考力や，この解決策を物理的に実現する技術開発能力を最低限程度に習得している。	卒業論文(7・8)
研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論する能力。	研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論するための，十分な能力を習得している。	研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論するための，標準的な能力を習得している。	研究などの結果を整理し，得られた成果の意義や有効性も含めて，文章で論理的に記述するとともに，口頭で分かりやすく発表し討論するための，最低限の能力を習得している。	卒業論文(7・8)
グループワークにおけるチームワーク，リーダーシップやコミュニケーション能力。	グループ課題の解決を通して，チームワーク，リーダーシップ，発表・討論のためのコミュニケーション能力を，十分に習得している。	グループ課題の解決を通して，チームワーク，リーダーシップ，発表・討論のためのコミュニケーション能力を，標準程度に習得している。	グループ課題の解決を通して，チームワーク，リーダーシップ，発表・討論のためのコミュニケーション能力を，最低限程度に習得している。	電気工学基礎実験Ⅰ(3)； 電気工学基礎実験Ⅱ(4)； 電気電子工学実験Ⅰ(5)； 電気電子工学実験Ⅱ(6)
社会に存在する様々な問題が，社会情勢や文化によって多様に解釈できることを理解した上で，その問題解決に向けた取り組みができる能力。	社会に存在する様々な問題が，社会情勢や文化によって多様に解釈できることを十分に理解し，その問題解決に向けた取り組みができる十分な能力を習得している。	社会に存在する様々な問題が，社会情勢や文化によって多様に解釈できることを標準程度に理解し，その問題解決に向けた取り組みができる標準程度の能力を習得している。	社会に存在する様々な問題が，社会情勢や文化によって多様に解釈できることを最低限程度に理解し，その問題解決に向けた取り組みができる最低限の能力を習得している。	○パッケージ別科目，○スポーツ実習科目，○基盤科目(数学，物理等の科目を除く)，○自由選択科目(1・2)； ○総合科目，○領域科目(3・4)

研究遂行に必要な、英語に関する英会話、リーディング、およびライティング能力。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、十分に習得している。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、標準程度に習得している。	技術者として必要とされる英語に関する英会話、リーディング、ライティングの能力を、最低限程度に習得している。	○コミュニケーションⅠ，○ベシック外国語Ⅰ(1)； ○コミュニケーションⅡ，○ベシック外国語Ⅱ(2)； ○コミュニケーションⅢ(3・4)； 技術英語演習(6)； 卒業論文(7・8)
--	--	--	---	--

到達度の評価方法

各評価項目の到達度は、別紙 2 で指定した授業科目の平均評価点として算出し、

非常に優れている (Best) : $4 \geq L_j \geq 3$

優れている (Modal) : $3 > L_j \geq 2$

基準に達している (Threshold) : $2 > L_j \geq 1$

とする。

評価項目 j に対する平均評価点 L_j は、 j に該当する授業科目 k の単位数を α_k 、評価点を P_k とすると、

$$L_j = \frac{\sum_k \alpha_k P_k}{\sum_k \alpha_k}$$

に基づいて算出する。但し、

- ・平均評価点の計算においては、指定した授業科目のうち評価時点までに単位を修得した科目のみを対象とする。
- ・授業科目 k の成績評価に対する P_k は次の通りとする。
秀 : $P_k=4$, 優 : $P_k=3$, 良 : $P_k=2$, 可 : $P_k=1$
- ・各評価項目に該当する授業科目は別紙 2 の通り。

担 当 教 員 リ ス ト

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
山本 透	担当授業科目：自動制御工学，線形システム理論，卒業論文 研究室の場所：未定 E-mail アドレス：yama@hiroshima-u.ac.jp	
大野 修一	担当授業科目：信号処理工学，卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-525 E-mail アドレス：ohno@hiroshima-u.ac.jp	
中本 昌由	担当授業科目：卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-512 E-mail アドレス：msy@hiroshima-u.ac.jp	
金田 和文	担当授業科目：エネルギー変換機器，エネルギー発生・変換機器工学（前半），卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-344 E-mail アドレス：kin@hiroshima-u.ac.jp	
玉木 徹	担当授業科目：回路理論 I，卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-343 E-mail アドレス：tamaki@hiroshima-u.ac.jp	
ライチェフ ビセル	担当授業科目：卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-342 E-mail アドレス：b.raytchev@eml.hiroshima-u.ac.jp	
餘利野 直人	担当授業科目：電力システム基礎，エネルギー発生・変換機器工学（後半），卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-422 E-mail アドレス：yorino@hiroshima-u.ac.jp	
造賀 芳文	担当授業科目：回路理論 I，電力システム工学，卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-424 E-mail アドレス：zo@hiroshima-u.ac.jp	
佐々木 豊	担当授業科目：卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-423 E-mail アドレス：yusasaki@hiroshima-u.ac.jp	
辻 敏夫	担当授業科目：生体システム工学，回路理論 II，卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-542 E-mail アドレス：tsuji@bsys.hiroshima-u.ac.jp	
柴 建次	担当授業科目：電子回路 I，卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-545 E-mail アドレス：shiba@bsys.hiroshima-u.ac.jp	
田中 良幸	担当授業科目：卒業論文 研究室の場所：工学部 A1-516 E-mail アドレス：ytanaka@bsys.hiroshima-u.ac.jp	
未定（年度により）	担当授業科目：技術英語演習	

異なる)	研究室の場所： E-mail アドレス：	
未定（年度により異なる）	担当授業科目：電子システム・電気電子工学概論 研究室の場所： E-mail アドレス：	
未定（年度により異なる）	担当授業科目：電気工学基礎実験Ⅰ 研究室の場所： E-mail アドレス：	
未定（年度により異なる）	担当授業科目：電気工学基礎実験Ⅱ 研究室の場所： E-mail アドレス：	
未定（年度により異なる）	担当授業科目：電気電子工学実験Ⅰ 研究室の場所： E-mail アドレス：	
未定（年度により異なる）	担当授業科目：電気電子工学実験Ⅱ 研究室の場所： E-mail アドレス：	

【応用数学グループ】

担 当 教 員 リ ス ト

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
柴田 徹太郎	担当授業科目：応用数理 A、応用数学総合 研究室の場所：A3-824 E-mail アドレス：shibata@amath.hiroshima-u.ac.jp	主任
坂口 茂	担当授業科目：応用数理 C、応用数学総合 研究室の場所：A3-845 E-mail アドレス：sakaguch@amath.hiroshima-u.ac.jp	
三上 敏夫	担当授業科目：応用数学総合、確率・統計 研究室の場所：A3-722 E-mail アドレス：mikami@amath.hiroshima-u.ac.jp	
久保 富士男	担当授業科目：応用数学 IV 研究室の場所：A3-726 E-mail アドレス：remakubo@amath.hiroshima-u.ac.jp	
西野 芳夫	担当授業科目：応用数理 C、応用数学の世界 研究室の場所：A3-826 E-mail アドレス：nishino@amath.hiroshima-u.ac.jp	
伊藤 雅明	担当授業科目：応用数学 II、応用数学 III 研究室の場所：A3-843 E-mail アドレス：ito@amath.hiroshima-u.ac.jp	
税所 康正	担当授業科目：応用数学 II、確率・統計 研究室の場所：A3-724 E-mail アドレス：ysaisho@amath.hiroshima-u.ac.jp	
伊藤 浩行	担当授業科目：応用数学総合 研究室の場所：A3-727 E-mail アドレス：hiroito@amath.hiroshima-u.ac.jp	
市原 由美子	担当授業科目：応用数学 III、応用数学総合 研究室の場所：A3-842 E-mail アドレス：ichihara@amath.hiroshima-u.ac.jp	

担当教員名	担 当 授 業 科 目 等	備 考
内山 聡生	担当授業科目：応用数学 I、応用数学 II、 応用数学 III、応用数学総合 研究室の場所：A3-825 E-mail アドレス：uchiyama@amath.hiroshima-u.ac.jp	
樋口 勇夫	担当授業科目：応用数学 II、応用数学 III、 応用数学総合、確率・統計 研究室の場所：A3-723 E-mail アドレス：higuchi@amath.hiroshima-u.ac.jp	
鄭 容武	担当授業科目：応用数学 I、応用数学総合、 確率・統計 研究室の場所：A3-728 E-mail アドレス：chung@amath.hiroshima-u.ac.jp	
吉田 清	担当授業科目：応用数学 II、応用数学 III、 応用数学総合 研究室の場所：A3-834 E-mail アドレス：yoshida@amath.hiroshima-u.ac.jp	
川下 和日子	担当授業科目：応用数学 I、応用数学 II、 積分学講義演習 研究室の場所：A3-833 E-mail アドレス：wkawash@amath.hiroshima-u.ac.jp	
北臺 如法	担当授業科目：応用数学 I、応用数学 II、 応用数学 III、応用数学総合 研究室の場所：A3-711 E-mail アドレス：Nyoho@hiroshima-u.ac.jp	

※ 主任の方には，備考欄へ「主任」と記載願います。